

令和3年7月熱海市伊豆山(いずさん)土砂災害 災害リハビリテーション支援関連情報

災害対策委員会 下田栄次

令和3年7月熱海市土砂災害、令和3年8月豪雨災害に際し、被災された方々には心からお見舞い申し上げますとともに復興に尽力されている皆様には安全に留意されご活躍されることをお祈りいたします。

令和3年8月11日から20日にかけて、1週間も経たず年間雨量の5割に達する地域も出るなど、九州、中国、四国地方を中心に全国各地で広範囲で記録的な豪雨による災害が発生しました。14日には、長野県、岐阜県、島根県、広島県、福岡県、佐賀県、長崎県の7県(82万世帯、181万人)に、翌15日には千葉県、長野県、島根県、広島県、福岡県、佐賀県の6県(26万世帯、58万人)に「緊急安全確保」が発令されました。神奈川県足柄上郡山北町や松田町では1時間に100ミリ以上の猛烈な雨が降り、記録的短時間大雨情報も発表されました。地震災害に限らず、風水害に対する備えや対策の重要性も年々高まってきています。

また7月には隣県の静岡県熱海市伊豆山地区にて土石流による土砂災害が発生しました。7月3日の発災後、静岡 JRAT では、翌日より SNS を介した活動が開始され、5日には行政との情報共有会議に参加しています。関連団体や関係部署・局との協議を重ね、7月21日から8月1日まで、避難所施設として充てられたホテル2施設で、避難生活を続ける災害時要配慮者に対して、身体機能の確認から二次的な障害予防、住環境整備に関する生活環境支援を実施しています。

その後8月3日から8月31日まで、静岡 JRAT から地域の医療や福祉につなげていく方針のもと、広域リハビリテーション支援に移行し、静岡県リハビリテーション専門職団体協議会の災害支援チームが避難所支援活動を継続しています。今回は、コロナ禍における感染対策も考慮して、宿泊施設(ホテル)を活用した避難所であったため、従来の小・中学校の体育館等を利用した避難所より生活環境は良好で、医療支援や福祉支援が滞りなく実施できています。

しかし当該地区の高齢化率は48.3%とかなり高い水準です。被災地域や周辺地域全体の活動量の低下による生活不活発病やコロナによる自粛が引き起こすフレイルには注意が必要です。隣県としても、これらの地域に対する災害リハ支援活動を教訓とし、引き続き動向を見守っていく必要があります。

①静岡新聞(2021年7月31日)

熱海土石流 被災者の体力低下防ぐ 静岡 JRAT が診察や支援

<https://www.at-s.com/news/article/shizuoka/937793.html?fbclid=IwAR20QnicqVaealfJh8zj8NwH62VjxbD7gwF10rgWPD0y2V2X7nhYtJUkyb8>

②中日新聞(2021年8月2日)

被災した高齢者ら支援 静岡 JRAT が熱海入り

https://www.chunichi.co.jp/article/302663?rct=h_shizuoka

③静岡新聞 (2021年8月27日)

熱海避難者の健康維持 静岡県リハビリ専門職団体協議会
オンライン、ICT 活用し体操指導

https://www.at-s.com/sp/news/article/shizuoka/951333.html?fbclid=IwAR1GAq3s86C42NHWkrhkOkxWLpvoGUo0uq55wrRzBX5ZffNqrSX_UoD2YfY

④静岡県リハビリテーション専門職団体協議会

熱海市土砂災害における避難所支援事業

<https://srehamix.com/custom33.html>

参考

厚生労働省「地域リハビリテーション推進のための指針」の改定について

(老老発 0517 第 1 号)5 月 17 日発出

https://support.japanpt.or.jp/upload/japanpt/obj/files/info/contact_125_0302.pdf